市川よみうり
2009年6月20日第1502号
市川よみうり新聞社

浦安市

三番瀬の活動拠点に
2年後に学習施設を設置

浦安市は二年後の平成二十三年度、荒地公園北側の三番瀬に面した日の出七の五の四及び五に三番瀬を市民が利用するための施設「仮称うらやす三番瀬環境学習施設」を設置する。海に面しているが、護岸から海を利用することができない同市。三番瀬で活動する同市内の環境保全、環境学習団体を含めた団体や市民と連携し、三番瀬関連活動や事業の拠点とする。ただし、「『うみ』と『まち』との結節点」と位置づける同施設の整備は、現在禁じられている海への立ち入り問題の解決が課題。

「船橋市や市川市よりも浦安市民に最も近い海である三番瀬」（同市三番瀬の保全・再生及び水辺の活用に関する浦安市の基本方針、平成十五年）。同市は三番瀬を「自然環境と共存しながら、市民が遊び、憩い、学習できる場として活用していく」ことを基本目標に据えている。

同施設は、同市が同方針を元に庁内で策定した「日の出三番瀬周辺地区の整備に関する基本的方針」（同二十年度）を受けて、三番瀬を活用した市民の自然体験や環境学習をさらに推進するために整備する。

同三番瀬周辺地区の整備は▽市民主体の環境活動や環境学習の更なる推進▽三番瀬の自然環境に配慮▽市民の憩いの場とする▽環境活動団体やボランティア、関係機関との役割分担や連携を図る―考え。

同施設の基本方針には▽三番瀬を活用した市民の環境学習や自然体験を推進▽三番瀬の自然環境の保全を推進▽三番瀬を広く市民に周知―を掲げ、「三番瀬の市民利用のための施設」とする。現在、市川市の漁協と連携してノリ養殖の実験を進めている郷土博物館と連携した生涯学習施設にも位置づけている。

同施設の敷地は約二千平方㍍、鉄管道二階建て、延べ床面積は約五百五十平方㍍。ラムサール条約登録地の水鳥・湿地センターやビジターセンターを参考に整備する。市民や児童・生徒向けの展示・体験・観察、三番瀬（千出城・野鳥）の観察、同市内の環境活動団体やボランティアとの連携の場―などの機能を整備。隣接する街区公園や緑道、緑地との一体的な敷地利用を進める。

ただ、県が進める三番瀬の保全・再生事業が大きく進展していないことから、市川市に整備が計画されている環境学習施設との相互関係は整理されていない。現在、禁じられている海への立ち入り問題も未解決。地区全体の活用方法など具体的な構想は、七月上旬に事業者が決まる同市の環境学習施設の基本設計事業とともに進めていく考え。市民参加で検討することは明言していない。

同環境学習施設と外構、植栽などの工事費は二億千二百万円。

市川よみうり（第三種郵便物認可）　2009年7月4日 土曜日

要望書

「市民交え基本構想を」
浦安市三番施環境学習施設

浦安市が平成二十三年度供用開始に向けて基本設計者の選定作業を進めている三番瀬環境学習施設について、同市民二十二人と市民団体「海・まち・デザイン」は先月二十九日、同施設と三番瀬、隣接する公園、緑道などを含めたグランドデザインを行うとともに、市民参加で検討する場の設置を求める要望書を同市に提出した。

要望書では、「浦安市にとって貴重な自然である三番瀬を学べる施設ができることは、私たちにとっても大変うれしいこと」とした上で、「環境学習にはフィールドワーク、すなわち『体験』の場である三番瀬があることが大切。目の前にありながら、水にも生き物にも触れられない体験学習ではあまりにも意義が薄い。拙速に建物の位置や内容が決まってしまっては、致命的な足かせになる」と指摘する。

また、新町地域に関する都市計画審議会で「まちづくりの具体的な内容については住民意見を参考にしながら進めてもらいたい」と行政に市民参加を促した付帯事項を挙げ、基本設計の段階から、公募市民メンバーなどを含めたワークショップなどの開かれた形で納得いくまで対話し、協働してデザインしていくことが必須―とする。

海・まち・デザインの滝井健次事務局長は「三番瀬問題は課題が数多く、調整は難しいだろうが、市民が望む施設を作ることに努めてほしい」と話した。